

表紙の モデル



さおとめ 早乙女

稲作の工程を再現して舞う田植踊。この踊りで目を引くのは、早乙女と呼ばれる踊り手たちです。普段の農作業ではありえない、さらびやかな衣装を身にまとい、美しく踊ります。「南津島の田植踊」では、早乙女たちの動作に、もっとも稲作のしぐさが再現されています。かつては男性が踊るもので、女性よりも女性らしい柔らかな所作が求められる役どころです。

バックヤードのひとこま

今回の展示は民俗芸能。
これまでの展示とは
異なる作業も多くありました。
その様子をお伝えします！



しがしら
社壇・獅子頭といった
芸能の用具を運び出す。
キャンパスがお祭りムードに！



マネキンを着つけて、
田植踊の華やかな衣装を伝える。
着付けの作法もできるだけ再現！



鑑賞ガイドも同時並行で作成。
民俗芸能に親しんでもらえるように
心をこめて作りました！

東北学院大学博物館 情報誌

OTAKU みゆーじあむ

豊穣の踊り、お宅でいかが？

—— タイトルの由来 ——

東北学院大学博物館が開催するユニークなイベントや所蔵する“ちょっとマニアック？”な資料を紹介する雑誌であり、ご自宅で読んで楽しめる雑誌を目指し、このタイトルにしてみました。

発行日 2025年3月15日

9号担当 吾孫子侑希、松浦那奈

編集・発行 東北学院大学博物館

〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋一丁目3-1

TEL: 022-264-6920

<https://www.ipc.tohoku-gakuin.ac.jp/tgum>



- 東北学院大学土樋キャンパス内 中央図書館南側
- 地下鉄「五橋駅」下車、愛宕上杉通りを南方向に徒歩5分
- 来館者用駐車場あり(愛宕上杉通り側から)

東北学院大学博物館 情報誌



OTAKU みゆーじあむ



豊穣の踊り、
お宅でいかが？

9号

ワークショップ

2024.10～12

「昔なつかし!? コマであそぼう」の開催

企画展「青春、民玩!」の関連企画として、昔ながらの手作りコマをテーマにした体験型のワークショップを、2回にわたって開催しました。

10月25、26日の両日は、六軒丁祭（土樋キャンパス大学祭）のイベントとして、博物館展示室内でワークショップを開催しました。

また12月21日には、SMMA（仙台宮城ミュージアムアライアンス）主催の「ミュージアム・ユニバース」に出展し、同じく手作りコマをテーマとしたワークショップを開催しました。当日は親子連れを中心に、何と150名以上の方が参加してくださいました。今では触れる機会がなくなってしまった手作りおもちゃの魅力を、地域の子供たちに再発見してもらうまたとない機会となりました。

なおこのイベントは、当館の学芸研究員と、今年度発足した「東北学院ミュージアムサポーター」として企画に参加してくれた文学部歴史学科の学生たちが主体となって企画立案、実施されました。



2024.10～12

「古代都市多賀城」展に
当館の墨書人面土器が展覧

当館所蔵の、多賀城市市川橋遺跡から出土した墨書人面土器が10月5日から12月22日まで多賀城市埋蔵文化財センターで開催された「古代都市多賀城」展に出展されました。創建1300年を迎えた多賀城の城下に住んだ人々の祈り・願いを伝える文化財として紹介されました。



新収資料

新資料の収集

勝平得之「雪国の市場」ほか

今年度の新収コレクションとして、従来から継続的に収集をおこなっている、秋田出身の版画家・勝平得之の作品を新たに2点購入しました。秋田を中心とする東北各地の祭礼や風俗をテーマとする勝平の版画は、美術作品としてはもちろん、東北地方の人々の生活を記録した民俗資料としても、貴重なものです。



2024.12～開催中!!

企画展

「南津島の田植踊展—未来へつなぐバトン」

東北地方を代表する民俗芸能である田植踊。「南津島の田植踊」は、福島県重要無形民俗文化財・国の選択無形民俗文化財に指定されている貴重な芸能です。しかし、福島県浪江町南津島地区は、いまなお大部分が帰還困難区域に指定されている状況にあります。

南津島郷土芸術保存会と歴史学科金子ゼミ（民俗学）の協働により、2022年から民俗芸能の継承支援に関するプロジェクトを行ってきました。企画展はその成果と、田植踊の魅力を紹介するものです。

南津島の田植踊展

—未来へつなぐバトン—



いま日本各地の民俗芸能が継承の危機を迎えています。とくに東日本大震災によって、避難や移転を強いられた地域の民俗芸能は、多くが休止・廃絶してしまいました。

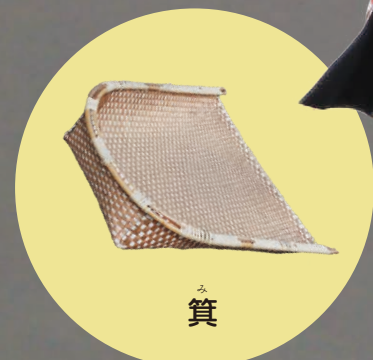
そうしたなか、保存会と大学生が協力し地域の大切な芸能を支える活動を、歴史学科金子ゼミでは行なっています。総勢で15名が必要となる田植踊を、学生たちが入ることで支えられるように、交流を重ねてきました。

地域に残された芸能の魅力やすばらしさを、初めて見る人にも伝えたい——。そんな気持ちを込めて展示を企画しました。



6. 上がり^{とうみ}/唐箕ふき

扇を持ち、もみ殻を吹き飛ばしています。これで早乙女の踊りは終わります。



箕

1. 種まき^{たねお} (種下ろし)

両手に持った「四つ竹」で、種まきの動きを再現します。



四つ竹

田植踊の6つの演目には、
豊作の願いが込められている！

早乙女にみる 稲作の動き

5. 粳すり^{もみ}(磨白)^{するす}

両手に持ったささらで磨白を引く動きを表現しています。



磨白

4. 稲扱き^{いねこ}

左手のささらは千歯扱きを、右手のささらは稲を表し、穂を取る動きを再現します。



千歯扱き

3. 稲刈り

左手のささらを稲に、右手のささらを鎌に見立て、実った稲を収穫します。



ささら

2. 田植え

四つ竹を左右に動かし、上下させて行なうことで、苗を取り、田に植える動きをしています。



背筋を伸ばし、
膝を曲げる体勢で踊るので
けっこう大変！